令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　田原　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、３年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

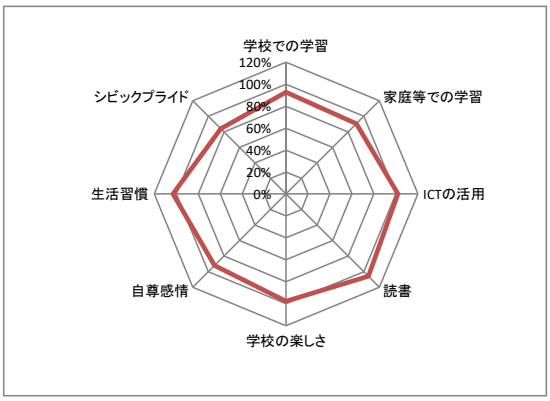
(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「(2) 情報の扱い方に関する事項」の領域に関しては、福岡県や全国平均正答率を上回っている。また、「A　話すこと・聞くこと」の領域に関しては、全国平均と同等である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	
	努力が必要な問題	漢字を書く（おし量って）	

数学	全体的な傾向や特徴など	「A　数と式」の領域に関しては、全国平均正答率を上回っている。また、「D　データの活用」の領域に関しては、全国平均と同等である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	－5、0、3、4．7、9の中から自然数を全て選ぶ	
	努力が必要な問題	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	

英語	全体的な傾向や特徴など	いずれの領域においても、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	
	努力が必要な問題	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学校に行くのは楽しいと肯定的に考えている生徒は全国平均を上回っている。 ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている生徒やの割合が全国平均を大きく上回った。 ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合が少なく、自分の考えや意見を発表することや、他の生徒と話し合う際に、積極的に話し合いに参加しようとする生徒の割合が低いと考えられる。 ・家庭での学習時間が1時間以上の生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。また、長時間読書をする生徒の割合が全国平均を上回り、読書が好きな生徒の割合も多いが、読書を全くしない生徒の割合も多く、二極化している。 ・生活習慣では、朝食や起床時間など、基本的な習慣の定着ができている生徒の割合が全国平均を上回っている。 ・地域との関わりに関する質問に対して、地域に関心をもったり、積極的にかかわろうとする生徒の割合が低い。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

各教科の授業の中で、生徒が自ら考え、表現する活動や話し合い活動の時間を確保し、行間及び内容を読み取らせる活動を意識し、まとめ・振り返りで理解したことを表現する活動をさらに充実させていく。また、生徒の自己肯定感・有用感を高めるため、活動結果及びその過程を意識して評価するなど、生徒の成功体験を増やす。

②　家庭生活習慣等に関する取組

家庭での学習習慣は定着しつつあり、今後も家庭学習用「Tノート」の活用や、「週末課題」の継続的な出題に引き続き取り組む。さらに、その充実度合いにも着目して成績向上につなげていきたい。また、保護者には保護者懇談会等を通して、家庭での声掛け等の協力をお願いする。